

長生きする 企業のヒント



え・たむらかずみ

● 生の大先輩に学ぶべきことはたくさんあります。

異業種の人たちが集まる研修会で、若い講師が初めて研修を担当しました。大勢の参加者の中、最前列で終始うなずいて聞いていたのが、百歳のご老人でした。

終了後、講師はご老人に、「内容はご理解いただけましたか？」と尋ねました。すると、「耳が遠くてよく聞こえませんでした」とサラリと答えました。そして、「ただ、あなたが一所懸命話されている、そのお気持ち伝わってきました」と頭を下げられたのです。

若い講師は、一番前でうなずいて聞いてくれたご老人のお陰で、プレッシャーの中でも話を進めることができたのでした。そして、包み込むような人柄に感銘を受け、「自分もこの方のように年を取りたい」と思ったのです。

同じ研修会には、九十八歳のベテラン講師がいます。ある日の研修後、家族の話になりました。講師は夫を三十年以上前に亡くしています。ある参加者が、ご主人の

戒名は何かと尋ねると、講師は夫だけではなく、父母の戒名もスラスラと答えました。周りが驚いていると、「でも、生きている人のお名前はすぐ忘れませんが…」と冗談を交えて、笑いが起きました。

つかの共通点があります。

- ① 思ったことをあっさりと言う。
- ② 腹を立てずに、気が長い。
- ③ 思いやりがある。
- ④ 何でもやってみる意欲を持つ。
- ⑤ 朝早く起き、夜はさっさと寝る。
- ⑥ 無茶食い、無茶遊びをしない。
- ⑦ 喜んでよく働く。

亡き家族を思う日頃の実践ぶり、場を和ませる応答に、そこにいる皆が感服したそうです。

また、七十歳を過ぎて倫理を学び始めたある会員は、人工透析の治療を受け、歩行も困難な状態でした。九十歳を超えてから倫理指導を受け、妻への感謝が足りなかったことに気づきました。そして妻へ、労いの言葉をかけることを実践したのです。

「一緒にいる年数が長いから、労働力があり過ぎて、病気どころではなくなってしまう」と氏は語ります。やがて、自分の足で歩けるまでに回復したのです。

*

皆さんの周りにも、こうした年長の方がいらっしやるでしょう。年齢を重ねてなお魅力を増し、周囲も明るくするご老人には、いく

こうしてみると、長寿者の生き方はそのまま、長寿企業の在り方にも重なるのではないのでしょうか。

「企業は人なり」というように、経営者の生き様はそのまま組織に反映します。高齢者の生き方から学び、日々の指針とすることで、長期の発展が実現し、その企業にしか出せない味が醸し出されてくるのでしよう。